

草津市立矢倉小学校通信 令和3年9月15日 NO.9



やぐら通信

～ひとみキラキラ豊かな心と体の矢倉っ子～

おもしろさが味わえるようになるということ

緊急事態宣言の発出を受け、午後からオンライン授業をするようになった。どんなことをしているのか、そのようすを見て回った時のこと。3年生は、地図帳の見方を学んでいた。調べたい地名を索引から突き止め、地図帳のどのページの、どこにあるか探せるようになる…そんな学習だ。そういえば、私にも地図帳がおもしろいと思えてきて、そこでやっと、のめりこんでいたなあ…と、子どものころを懐かしく思い出した。

それは、小学3年のころだったろう。

その夜、兄と私は、いつも通り、それぞれ寝床に入った。どうにも寝付けない私は、スタンドの灯りを枕元に引き寄せて、兄が何やら見入っているのが気になった。時折、ニヤニヤしたり、深くため息をつくように感心したり…。見ていて妙にうらやましくなり、何してんの？と尋ねた。あわよくば、自分にもそのおもしろさを分けてもらいたい、そんな期待を込めてのことである。

そこで見せてくれたのは地図帳だった。しかも巻末にある統計の見開き箇所である。ちょうど、自分も3年生になり、地図帳が与えられたところだった。そのころの私にとっては、地図帳は、どこをどのように見ていくといいか、皆目わからず、ただ、たくさん土地の名、記号が書き込まれた、ややこしい本だった。

兄からはこんなことが語られた。

「ここ（統計のページ）、おもしろいぞ。いろんなことがわかる。表になってて、わかりやすくなってるんや。すごいぞ。」地図帳の魅力はここにあり、と言わんばかりの勢いだった。

そうこうするうち、一番面積が広いのが北海道で、人口が多いのは東京などと、さまざまなランキング、さらには全国各地の特産物などが列挙されているのを見せられ、統計表の見方を説明されていった。さらに、これ知ってるか、聞いたことあるだろうと、主な都市の名や河川、山の名、地名など、当時の自分にとっては、さほどおもしろくもないことをあれやこれやと聞かされていったのである。その夜、私たちは布団から頭だけ出し、兄は地図帳を開きながら、ぼそぼそと何ごとかを語り続け、そして、私はそれを聞きながら、いつの間にか寝入ってしまったと記憶している。

こうした夜のやりとりがしばらく続き、やがて、私たち兄弟は、それが地図帳のどこにあるか、問題を出し合いながら、地図が提供してくれる空想の世界を遊びまわれるようになっていった。

世の中には、一見しておもしろくなさそうな、それ故、とっつきにくいものがさまざまにある。とにかくつき合うことだ。そのうち、なんとか乗り越えられるようになるものだ。おもしろみや、やりがいは、その先にあり、自分の思うようにやっていける世界が待っている。子どもたちに、ぜひともつかんでほしい世界である。